

# ラオス国における GP 農法の研修実施状況

2019年3月

東南アジア諸国での GP 農法の普及を目指し、以下の通り、ラオス国で農民向け研修会を実施した。

## 1. 実施期間

1回目 2018年8月6日～8月8日（3日間）

2回目 2018年12月11日～12月13日（3日間）

## 2. 実施場所

サバナケット県タッサノ農業研究センター（ラオス国立農林研究所の地方研究センター）

## 3. 研修の目的

GP 農法の普及によるラオスの農民の収入向上

## 4. 主催責任者名

プッタライ博士（タッサノ農業研究センター所長）

## 5. 講習者名

プッタライ博士（ラオス側）

佐々木孝夫（日本側）

## 6. 参加村及び人数

1回目 ドンカムプアン村（4名）、ナセン村（5名）、ブエンタライ村（5名）

ノイサワン村（4名）、陸軍農業部隊（2名） 合計 20名

2回目 タッサノ村（3名）、ドンマンヤン村（3名）、ソンプオ村（1名）、

ノンウドン村（4名）、ソー村（4名）、ノンデン村（2名） 合計 17名

## 7. 研修内容

①良い土とは？（講義とディスカッション）

②GP 農法とは？（講義）

③GP セラミックの効果（講義と実習）

④草エキスの作り方と使い方（講義と実習）

⑤発酵糞殻の作り方と使い方（講義と実習）

⑥野菜の栽培と販売（講義）



講義風景



草エキス作りの実習



発酵糞殻作りの実習

## 8. 研修後の GP 農法普及状況

2019年2月のモニタリング結果によると、研修に参加した10村、1団体の内、6村において GP 農法が実施されている。残りの村についても、今後、フォローアップ活動を行い、普及を進める予定である。